

まず赤ちゃんの人権を守ってください。育児休暇を2年義務化すれば0歳児1歳児が7時間8時間の集団生活を余儀なくされる事はないと思います。
こちらは国の問題ですが、年金を30年40年貰っている人が結構いる事を思えばそちらの年数を減らし、乳幼児に2年間予算を付けて欲しいです。
まずは生まれてきた子供達を愛情持って育てることからです。
そして、小学生だけでなく母親達が帰るまで中高生も利用出来る居場所を作って戴ければと思います。

「第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画(素案)について」

提出者区分：③

氏名： [REDACTED]

住所： [REDACTED]

ステップ21の利用率が落ちているのは在宅主婦の減少、及び共稼ぎによる保育園等へのシフトが原因との話を職員から聞き、今はこの施設自体が時代の流れ的には必要性が少なくなっているとの話。

専業主婦でないと使えない施設というのもなんだかおかしい気がします。

昭和の古き良き時代に作られた福祉施設の一環だったかもしれません。

今は貧困層や共働き世帯をいかにサポートするか？しかも限られた財源でという時代なのでここまで手が回らないというのが本当のところでしょう。

結論的にはステップ21は廃止するべきでしょう。公共施設再編の面から見ても、人件費、財源的に見ても、時代の流れから見てもそうすべきでしょう。

比較的ゆとりある専業主婦世帯まで面倒をみていたら八千代市は破綻します。

専業主婦世帯でも病気、育児ノイローゼなどでの緊急的な利用は除きますがそれはまた違う施設でカバーされているので大丈夫でしょう。

「放課後子ども教室」と「学童保育所」は学童保育だけでいいのでは？

そして「放課後子供教室」は今の数を今後計画的に減らし、ゼロへ。

学童保育も利用者年齢の制限（小2くらいまで）をつけて今後は少子化に合わせて減らしていくべきでしょう。

（※ただし現在以上に共働き化と核家族化が進んだ場合は微減）

自民公明が学童保育推進、それに対抗する形で立憲やそれに近い人等が放課後子供教室というイメージですが（議会ではそうですよね）

そんな議員さんのめだちたい、一票を取りたいがための競い合いの為に

わざわざ部署を別け、ほぼ同じ内容をやる意味はそこにあるのでしょうか？

税金は議員さんの名を上げるためにある訳ではないのですよ？この財政難の中

くだらない小競り合いをすべきではないのでは？部署を統一し、学童だけにしぼり

人件費を少しでも削減しようという気概のある人は八千代市には

いないのでしょうか？

私が学童一本化の理由は自公の応援ではなく、単に学童は共稼ぎや片親対象だから

です。放課後子供教室は専業主婦家庭もありなのでそれでは八千代市の全ての

子供の面倒を八千代市が見なくてははいけなくなるので、それでは財源がなくなる

から、学童の一本化と思っています。前に職員さんに聞いた話ですと
全ての子供の面倒は見切れないとの本音を言うておりましたよ。
そういった職員の声すら届かないのでしょうか？八千代市の議員さんらは。
秋葉元市長の100億の市庁舎計画を与野党誰も不信任案一つ出さずに黙認して
きたのですから100億の市庁舎の責任を負って少しでも削減案を
各議員、及び市の執行部は出すべきではないのでしょうか？

またほとんどの親御さんが放課後過ごさせたい場所が自宅や習い事に多いのに
何故放課後子供教室や学童を増やし続けるのでしょうか？

作ったら作った分だけ使うものなのでしょうか？作らなきゃ自宅に
待機になるのでは？

学童保育の件数費の半分は市が負担しています。増やせば増やすほど赤字になります。
学童保育の待機児童が100人といいますが、その大半は小学生3、4年生。では1、2年生は
どうしてたのでしょうか？3~4年になったからある程度は手がかからないという理由で
主婦がパートやバイトに働きに出るパターンです。逆に手がかからないのなら
一番アンケートのニーズが高かった自宅にいてもらえばいいだけの話では？

私の母も私が小学校3年の時からパートに出始めました。ですがそのころには私は
小学校の友達が多くいたので毎日友達の家に行ったり、一緒に外で遊んだり、
時には自分ちに友達を呼んで遊んだりしていました。

つまりその年になれば自ずと友達と遊ぶようになるし、遊び場、遊ぶ方法なども覚え、
まさに手がかからなくなります。つまり今学童保育に何が何でもいれなきゃいけない
理由がよくわかりませんし、昔からその位の年になれば親はパートに出てた家庭もあり
子供は子供同士のコミュニティーを築いて遊ぶというのは今も昔も変わらないのでは
ないのでしょうか？子供が親の監視下から徐々にはなれて自分で自分の行動を考え、
大人になっていく時期でもあります。子供の教育上大切な時期ではないのでしょうか？
それでも学童という監視下に置きたいのは親の過保護化の進行や、子供の自発的行動
を妨げ、自立心を衰えさす要因となるでしょう。今後の日本社会に激動の日本社会に
対応するにはいち早く対応能力、コミュニケーション能力の醸成が必要となって
来るかと思えますし、その激動時代に対応できる大人になるには親からの大人からの
監視の目からの自立し、自立心を養い、自分で計画を他人と一緒に立てて、
臨機応変に色々な場所で遊び、色々な人と学ぶ。こういう時期があってこそ
応用のきく頭の柔らかい大人になっていくのではないのでしょうか？

アンケートでは「自宅」「習い事」に続き子供にさせたい場所3位の図書館等の
公共の施設とありますが、果たしてそれはあっているのでしょうか？ハコセノだけ
作って与えてそこに押し込めはそれでいいのでしょうか？児童館や学童保育もしかり
です。大切なのは人々からの自立心を子供、任せて失敗やいたづらをしてしまったり子供、
公共の施設とは他にどんな人かよく目分はとつておれはいいのか？を学ぶべきであり

公共心を養う事の方が人生において勉強より大切かと思います。

大人の用意したハコモノやプログラムにあてはめてその自立心が社会性が本当に育つのでしょうか？ 八千代中央図書館にたまに行きますが、新聞を読むコーナーの机で堂々と勉強をし、本来の使い方をする大人が新聞を読もうとするとあっちいけ！！

という態度をする小学生がいることが多くあります。果たしてこういう子供は一体何を学ぶのでしょうか？目先の勉強より公共の施設で社会性を学ぶ方がこの場合大切なのではないのでしょうか？勉強さえすればいいという親の考えなら

それは間違いでしょう。それならば自宅で勉強されたらいいかと思います。それこそ友達をよんで。自宅が一番ニーズが高いのですから。

しかも席が空いていたらまだいい方で実際は子供らで占拠されていることが多いです。図書館はいつから子供らだけの場所になったのでしょうか？

ルールすら守れないなら使う権利はありませんし何故図書館の職員は注意しないのか？よくわかりません。他市の図書館はちゃんと職員が注意してますよ？

これは何年も前から言っていますが未だに改善されません。一体どうなっているのですか？

またよく職員の方で家庭の事情があって図書館に来ている子もいるという説明を

される方がいますが、それは昔のように5人兄弟で家ではとても勉強に集中できない家庭とかならまだ話はわかりますが、今は一人っ子が主です。むしろ勉強に集中できるでしょう。

どんな家庭の事情があってあんなに大量の小学生が図書館に来るのか？よくわかりません。

またクーラーや暖房のない家って今ほとんどないのでは？

またとある知り合いは学童で働いていますが、子供らの悪態に悩まされているそうです。

「このくそばああ！！」といって飛び蹴りかましてくる子もいるそうです。

学童職員の募集がちょいちょい出てるのはこの手の子供を叱れない状況にいるから

でしょう。怒れない職員やモンスターペアレントによる圧力等でストレスが

たまりやめていく。

こうした例は挙げていけばきりがありません。つまり学童や図書館、児童会館を与えてもそこに学びがなければかえって意味がなくなるかと思います。

昔はそういう場には必ず叱る、指導する大人がいました。また景気のいい時期でもあり、単独使用の児童館のようなハコモノもありでしたが、今は違います。

財政も厳しく、地方ではその手の類はほとんど複合化されています。図書館+支所+公民館とか児童館+図書館+公民館とか単独使用の為の施設はほぼ皆無です。

ハコモノも複合用途化の時代であり、またハコモノだけでなくソフトそれを管理する人間がしっかりしていないと無駄なハコモノになりかねないという話です。

公共の福祉は子供だけのものではないですし、税金は子育て世代だけのものではありません。

社会的なルールもモラルも学ばなく守らないのなら作る意味はないでしょう。

学童保育は作れば作った分だけ利用者が現れるだけの話でアンケートのニーズでは

自宅+習い事+友人宅+祖母家 = 148 に対し、学童+放課後子供 = 40.8

そのニーズは明らかに前者の方が多く、後者の割合が伸びているのは増やしただけの

数であり、これを市はあと148分伸ばしたいのでしょうか？それは財政上無理でしょう。学童があれば使うだろうけどニーズ的にはそんなに多い割合ではなく、かつなきゃないで自宅にいればいいという結果かと思います。

つまりあれば使いたいとはアンケートでは答えるが、

小学生1~2年の時期なら助かるがそれ以上の年代はあったらいいね程度では？

アンケートで不思議なのは

学童の待機児童数はどんなに増やしてもある一定数いるというところ。

今回の資料はなんかおかしい点が多いです。P16上のグラフでは定員数より

利用者数が常に下回り、下のグラフでは待機人数者が一定数いる。

しかも待機児童で自立心がでてくる小学校3~4年生以上の人数を待機児童から引くと定員人数以内に小学校2年生以下の待機児童が各年度なんとかおさまります。

つまり、自立心のある小学校3~4年生以上の利用を制限すればなんとか

足りるという話です。

確かに共働きの世帯にとっては学童は便利ですが、引っ越してきたばかりの家庭ならとりあえず入れるのはわかります。しかし子供の適応能力をなめてはいけません。

数か月もしたら友達ができるでしょう。特に小3以上ならそれなりの

コミュニティーに入り溶け込むことも時間の問題かと思います。

その時点で学童は卒業してもらい新たな引っ越してくる世帯に譲る、という流れにしないとあればあるだけ使うという傾向では八千代市の財源は持ちませんので。

このあたりで一手講じるべきでもあるかと思いますよ。この少子化時代に学童だけひたすら増やすのはなんか違和感があります。時代に逆行しているかと思います。

またよく考えると貧乏な世帯になればなるほど学童は高学年になればなるほど使用しないかと思います。小3くらいからならレンジでチンくらいできるでしょう。

なら学童でいくら弁当がでて助かるといっても一食500円はとるのですから

各家庭の負担になり、なら夜飯を作って置いてチンしてもらおう方が遥かに安上がりとなります。自宅だと学童費月8千円もかかりませんし、食費も安い。

つまりそこそこ稼いで教育に手を抜いている家庭が

高学年になっても利用しているパターンも多いのではないのでしょうか？

学童で市販の弁当を食べるならチンするだけの冷凍弁当やワタミの宅食等今は

なんでもでて、代替品はいくらでもあります。そのくらいの用意もしない家庭は一体どんな愛情を子供に施しているのでしょうか？そこがまず根本的な問題かと思います。ベストは親が手造りの夜飯を用意していく。

それでだめなら家でチンする何かを用意する。外で飯食ってきな！！というのは最終手段では？かなり冷えた教育方針の家庭かと思はいます。今「孤食」という

問題がありますが、今はネットの社会。小3くらいなら孤食をしている友達同士

無料のインターネットTV電話でつながれるでしょう。時間を合わせてお互いに

PCの回線でつながり話ながら食べたらどうでしょうか？いま小学校では

PC教育に力を入れるらしいですね。なら小3くらいならネットTV電話くらい

楽勝でできなきゃ文科省何教えてんの？って話になりますよね？

これは孤食対策でもありPCを使う勉強にもなります。みんながみんな子供食堂にいかなきゃいけない訳ではないかと思えますし、子供食堂も赤字の店も多く子供が夜中に店まで一人でいくパターンもあり防犯上問題点もあります。

ネットですつながって各家庭で子供らが安全に食事ができたらこの辺りの問題点はある程度解決するのではないのでしょうか？

原則小3以上は使用禁止。その分空く人数は小1～2年生の受け入れにまわせばいいのでは？

また利用者も小5～6年生は利用率が少なく、そもそも小1～2と同じ施設では合わないかと思えます。

また平成31年の待機数が減ったのは少子化の影響ではないのでしょうか？

つまり今後数年間でこの待機児童はどんどん減ると

思えますし、八千代市もご多分に漏れず少子化なのですから減っていかないとおかしいかと思えます。今までは人口が増えているから学童も増やさなくてはとと思っていましたが今回の統計にて子供の数は減っている事がわかりましたので、

今後はそろそろ学童をひたすら増やすという政策は転換期に来ているかもしれません学童の計画的な減少も選択肢として考えるべきでしょう。放課後子供教室は論外です。これから計画的に学童と統合し減らしてください。最終的にはゼロへ。

あとはそれでも共稼ぎ世帯が増え、小1～2年生を預けたいという家庭が増えるのなら小3以上の学童以外での過ごし方を考え、学童は小学校低学年用に譲り、かつ、増やすにしても少子化と地域開発等をしっかり見定めた計画をたてるべきでしょう。待機児童問題は主に0歳～3歳が主で、あとは小1の壁が主です。現在のように小6まで全部が全部面倒見て施設を増やしていったらきりがありません。財源も足りません。市が破綻します。どこかで線を引く考えをそろそろ持つべきでしょう。

一人っ子、謂昔の鍵っ子対策として、鍵っ子同士がネット等で連絡しあい、複数人数で各自の家々で過ごしては？

学童は小学校高学年は必要ないのでは？使用は低学年では？

学童保育も際限なく作るのではなく、圧倒的に自宅というアンケートを考えたらこの辺りで線をひくべきかと思えます。きりがありません。

学童増設よりもニーズの高い自宅待機を

いかに上手く利用する案を考えるか？が今八千代市が本当にやるべきことなのではないのでしょうか？

様々な手法を検討し、乳幼児親子や児童が自由に過ごせる児童館又はこれに類する
ような施設の設置」とありますが、そもそもアンケートでは習い事や自宅が
圧倒的に多いのですからいかに一人っ子同士、鍵っ子同士がお互いの家で遊んで
過ごせるか？という結びつきを親同士が近所づきあい等で結びついていく事が
大切なのではないのでしょうか？災害時の共助にもつながります。

子供の夏休みの居場所づくりはそもそも親がそれこそ考えるか、子供同士が
創造性を働かせて考えるべきなのではないのでしょうか？

昔は少し年上のお兄さんがリーダーとなって駄菓子屋に連れていってくれたり、
公園や原っぱ、多くは家の前の道路で遊びを考えて遊んだり、私なんかはよく
ユアエルムのおもちゃコーナーにみんなで遊びに行ったりしたものです。

そうやって創意と工夫で昔は遊び場をどんどんみつけていたり、創造して
いったものです。子供同士が口コミネットワークで情報を交換し、今どこが
空いてるとか共有して動いたものです。子供に考える力をつけさせるいい勉強に
なりますよ。子供の居場所の為に児童会館の設置など

していったらきりがないかと思います。

馬鹿正直にそれをやっていたらいくら財源があってもきりがないでしょう。

鍵っ子同士が家で過ごすとは火災などの事故リスクはありますが、それは年齢の
違う小学生高学年の子と組合すなどすれば回避もできるのではないのでしょうか？

▶75 子供医療費助成ですが 医療費の全部は無理でしょうし、
現在所得制限していないのがおかしいです。医療費全部となると
莫大なお金がかかり、最低限所得制限が必要ですし、八千代市の経常収支比率
は県内でワースト3位なのでですからもう少し身の丈にあった施策をすべきでしょう。
議会でこの所得制限案を言った議員は一人だけいましたが即刻執行部には却下されていまし
しかも強い口調でこれからも医療費補助はしていくと。。。公明党がこの助成に力をいれて
いるからでしょうか？そういう忖度より実際の八千代市の財政状況を鑑みて答弁して
もらいたいです。せめて小学6年生までにすべきでは？

中3までやってる市は裕福な市が多いです。八千代市がやれる範囲ではないです。
現在の財政難の時にやる制度ではないのでは？やるならこの財源は他のどこの財源を
削ったものか？説明が必要かと思います。あれもいい、これもいいでは財源が
なくなります。大阪市はきちんと他部署からの削減等でこの助成金を捻出しています。
八千代市は捻出無しでやるから財政が無制限に借金を重ねる結果となるのではないので
しょうか？きちんと財源を捻出してから初めてやるべきなのでは？

赤字市債等ではなくきちんと予算内での削減分による財源の捻出を強く願います。

公明党と大阪維新の会は一見同じような事を言っていますが大阪維新の会は
きちんと財源を絞り出しています。八千代市の公明党は財源の説明は？

学校のプールを廃止し民間に授業を任せた分で浮いた経費など公明党が主導で削減した分もありますよね？そういった成果をここに当てますという言い方をしていただければ市民も納得するのではないのでしょうか？
今後を期待したいです。

「第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画(案)」への意見

文書は極力平易にかつ分かり易く記載して広く市民等から意見を多数徴収が出来るようにして頂きたい、左記が結果としてより良い事業計画となる可能性が高い。左記実現のための意見は下記である。

- 1、 広報やちよ 2020 年 1 月 1 日号や中央図書館等で置いてある紙ファイルのタイトルでは、第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画(案)となっているが、HP 上のパブリックコメントでは第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画(素案)となっているがどちらが正しいのか、常識的には～～支援事業計画(案)が正しいと考える。その理由は、本計画は第2期～～であり、第1期の延長と理解し、初めてまな板に載る計画案ではない。又、平成27年3月(平成27年度～平成31年度)版や平成30年3月改訂版では、～～(案)の記載はない。本計画を～～(素案)とした理由を最初に記載(例えば、第1期等の内容を全面的に改定して振り出しに戻した)して頂きたい。
尚、事業計画を作成する場合には、内容の充実等の尺度によって「素案→案→案が取れる」が世間一般の考え方と理解する。
- 2、 平成27年3月版の第1期や平成30年3月の改訂版から踏襲した内容・見直しした内容・新たに追加した内容を PDCA サイクルに従って分かり易く記載をして頂きたい。又、最後に記載されている PDCA サイクルは、第2期に限定した考え方で、かつ中間年(令和4年度)の見直しは第1期の考え方とも異なりますが、その考え方を記載して頂きたい。
- 3、 P3 のタイトルがない図上で記載されている第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画の下に記載されている、第2期八千代市教育振興基本計画・八千代市第4次障害者計画・第5期障害者福祉計画・八千代市第1期障害児福祉計画・八千代市第2次健康まちづくりプラン・やちよ男女共同参画プランは子どもだけでなく大人も適用範囲と理解するがの本計画の適用範囲は子どもだけではなく大人も適用される内容と理解するが、左記の考え方で良いですか。又、適用した各資料の作成年月や要点等を内容理解の観点から付録等に記載して頂きたい。尚、適用資料名が膨大になるならば付録でその資料名を記載して頂きたい。
又、【国】の基準等に記載されている「子育て安心プラン」と「新・放課後子ども安心プラン」については、各々平成29年6月及び平成30年9月に策定と記載されているが、他の基準(子ども・子育て支援法、次世代育成支援対策推進法・基本指針)も策定年月を記載して頂きたい。
- 4、 P6 以降に人口統計が記載されているが、本市の人口は現在も増加中であり、ピーク人口(令和9年：西暦2027年)は約204,000人まで漸次増加予想ではないか、一方子ども人口推計(令和2年～令和6年)は右肩下がりで減少中となっているが、その理由も入れて頂きたい。例えば、子育て支援世帯は増えずに高齢者世帯が転入等で増加する。

数字を入れるからにはその解説・分析等も必要と考える。(行政支援計画の根幹と理解)

- 5、 P13 以降に幼稚園・保育園・認定こども園・待機児童数の状況が記載されているが、単に数字を記載するだけでは意味がない。現状と将来の分析を行ってより良くするための行政側の考え方(例えば、現状も将来も心配はない、現状は心配だが将来は子ども人口が減少するために心配はない、現状も将来も心配であるとか)の基本論についても記載をして頂きたい。
- 6、 P17 以降にアンケート調査結果から見える現状について記載されているが、実施時期・目的・調査内容・調査数・回答数・回答率等も入れて頂きたい。HP を見ると平成 30 年 11 月に無作為に抽出した内容と理解したが、広く市民から意見を募集するからにはきちんと記載するべきと考える。
- 7、 P32 以降にアンケート調査から課題と課題に対する施策等が P35 以降に記載されているが、下記について教えて頂きたい。
 - ア、P40 の【事業ごとの提供区域】の「多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業」の意味として P70 に記載されている多様な事業者とは具体的(参入者は誰でも良いのか)に何を指すのか、事業者の意味を問わない事か、及び「実費徴収に係る補足給費を行う事業」とは具体的には何(補助は国か県か本市か)を表しているか、分かり易く記載をして頂きたい。又、区域欄のーは何を指すのかも分かり易く記載して頂きたい。更に区域の 7 区域と市全域の定義も教えて頂きたい。市全域≒7 区域ではないことか。
 - イ、P42 以降の事業一般についての★印の意味として新規又は第 1 期からの見直し内容と記載されているが、新規と見直しの意味合いは違う、従って新規と見直しに分けて頂きたい。
 - ウ、★印以外の事業名は何を指しているのかを記載して頂きたい。例えば、第 1 期をそのまま踏襲した内容とか、又、本市独自の取組みとして他市に誇れる内容があればセールスポイントになるので記載して頂きたい。
 - エ、事業名は全て令和 2 年度から取組む内容か、左記と異なる場合には開始年度も記載して頂きたい。
 - オ、事業名として、社会的に重要度が増している「不登校・ひきこもり児童への支援」(12)は、対応として本市の取組み(相談員数・体制等)はどうなっておりますか、又、大人を含めると全国に約 115 万人(厚労省)の統計もあるが、大人を含めた本市の取組みはどうなっておりますか。考え方(例えば、本計画の範疇ではないとか)を合わせて記載すると更に良いと考える。
 - カ、事業を推進する体制として利用者に判断材料の提供の観点から運営形態としての公設公営・公設民営・民設民営等が考えられるが、現時点で把握している体制があれば、記載して頂きたい、利用者の考え方にあった利用形態の情報提供として望ましいと考える。

- キ、P47～P54 の市全域・7 区域の表に記載されている、特定地域型保育事業の特定地域とは具体的にはどこの地域を指すのかを記載して頂きたい。
- ク、P47～P54 の市全域・7 区域の表に記載されている、過不足(B)－(A)が大部分の区域で大幅に超過しており、この意味は利用者数よりも施設等で収容できる数が多いことか。意味を記載して頂きたい。例えば、利用者数よりも施設収容数が多ければ待ちが発生せず、利用者からすれば有難い。
- ケ、P65 の【地域子ども・子育て支援事業】の子育て短期支援事業(ショートステイ事業)として預かりは、市内の乳児院で行いますと記載されているが、現時点でもありますか、左記は良い取組と理解をしますので付録等で市内の乳児院)を記載して頂きたい。又、小・中学校の生徒を対象としたショートステイ事業も現時点でもありますか。
- コ、P67 の【地域子ども・子育て支援事業】の地域子育て支援拠点事業の過不足(B)－(A)が大幅超過となっており、財政状況が厳しい現状から望ましいとは考えにくい。大幅超過を良しとする考え方があれば記載をして頂きたい。
- サ、P68 の【地域子ども・子育て支援事業】の表の「量の見込み」及び「確保対策」の人は人口よりも多い数となっているが、この意味は一日利用人数×年間日数のことか、意味を記載して頂きたい。
又、「一時預かり事業(一般形)」の確保数が令和 3 年度まで大幅に不足しており、令和 4 年度に大幅に増やして改善と記載されているが、本当に出来ますか、出来る施策等があれば記載して頂きたい。
- シ、P70 の【地域子ども・子育て支援事業】の多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業の事業概要に記載されている特別支援教育経費とは具体的に何を指すのかを記載して頂きたい。例えば、今年の 4 月から実施予定の国から支給される給付金とは違うのか。
- ス、P74～P82 の【〇〇取組】の事業概要に記載されている内容が努めます、助成します、支援します、図ります、実施します等の定性的な表現となっているが言葉の統一は出来ませんか、又、定量的な表現とは出来ませんか。又、合わせ実施時期も記載して頂きたい、現在は未実施の意味ですか。

8、業務に携わっている人以外でも理解し易いように用語の解説を付録等を設けて記載して頂きたい。

用語解説は、子ども・子育て支援法(P3)、次世代育成支援対策支援法(P3)、基本指針(P3)、子育て安心プラン(P3)、新・放課後子ども総合プラン(P3)については要点等の記載をする、不可の場合は厚生労働省の HP の参照場所などを記載、ファミリー・サポート・センター(P23)、病児・病後児の保育(P23)、一時預かり(P23)の左記は公設か民設か市内には何か所あるのかを記載、子育て世代包括支援センター(P43)は P39 に記載されている 7 区域の全てにあるのか、

医療的ケアを要する園児の受入れ体制の構築(P43)は、医師の判断等が必要であり病院以外に市内にはあるか、外国籍の児童・生徒への日常生活等の支援(P44)現在の対応の外国語を第2期で拡張しその外国語数は、1号認定(P45)、2号認定(P45)、3号認定(P45)は本市独自の表現方法か、それとも国が定めた認定か、特定教育・保育施設(P47 他)、特定地域型保育事業(P47 他)、確認を受けない幼稚園(P47 他)、企業主導型保育事業(P47 他)の左記については現状数を含めて、基本型・特定型(P58)、母子保健型(P58)など

～以上～

「第2期 八千代市子ども・子育て支援事業計画(素案)について」

①本計画は、だれのための計画でしょうか。国の法律「子ども・子育て支援法」の目的・理念に沿ったかたちで市の施策も展開されるため、基本理念はとても重要となります。国の基本指針には、「子ども・子育て支援については、この法の目的を達成するため「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指すとの考えを基本に、子どもの視点に立ち、子どもの生存と発達が保障されるよう、良質かつ適切な内容及び水準のものとする必要がある」と記載されています。子どもの預かりなどの保護者への支援と共に子どもの最善の利益として子どもの生存と発達を保障できる計画の策定であってほしい。基本理念に「子ども自身の最善の利益を守る支援」と「親の子育てへの支援」の2つが必要と考えます。

②第1期計画(平成27年度～31年度)の基本施策1において、子どもの人権の尊重や子どもの意見表明、子どもに対する情報提供の充実などが記載されていました。ぜひ第2期にも記載して頂きたい。昨今、児童虐待が深刻化する中で、それらの内容をなくした理由をお聞きしたい。全般的に、保護者の支援に偏っており、子どもの育成・人権教育などが抜けているように見受けられますがいかがでしょうか。

③第1期計画に記載されていた八千代市の状況の各統計が第2期計画には殆ど掲載されていないのはなぜでしょうか。特に「転入転出者の状況」「子ども支援センターすてっぷ21の利用状況」「地域子育て支援センターの利用状況」「小中学校の児童数の推移」「心身障害児の現状」「適応支援センターフレンド八千代の通所状況」の記載をして頂きたい。

④55頁 事業No.55「研修等による資質向上」の概要に「給与などの処遇改善や働く環境改善を図ります」を加えて頂きたい。

⑤67頁 事業No.21 地域子育て支援拠点事業について
緑ヶ丘の地域では、土地開発が年々進んでいる中、子育て世代の転入が多くなってきています。孤立した子育てにならないよう親子で交流する広場の常設が必要です。公的施設が無理ならば、イオンなど民間事業者との協働なども検討し、親子が気軽に集える場所を緑ヶ丘に作ってほしい。住民層の変化と要望を的確に把握し、地区特性に応じた子育てしやすい環境づくりは行政の責務と思います。

⑥72頁 事業No.31、32の子育ての情報発信について
2つの内容の違いが分かりづらい事とそもそもどんな情報ツールがあるのかもわかりません。「にこにこ☆元気」は妊娠期から乳幼児の保護者向けの情報と思われそうですが、学童期の情報はいかがでしょうか？メール配信はどの対象でしょうか。2つの項目の違いや整合性はどんなことでしょうか。
保護者(妊娠期から18歳までの子育て中の方)はもちろん、当事者である子どもを含む全市民が、基本理念である「子育てしやすいまち」のイメージを持って、加えて他市の方が本市に住んでみたいと思えるような情報発信は重要と考えます。誰にどんな情報をどのような手段(方法)で発信するのかを具体的に記載していただくとわかりやすいです。
また、どちらも担当課が子ども部各課と記載されていますが、どこに問い合わせをすれば良いのかがわかりません。子ども部各課の情報を総括し、誰もが入手しやすく、わかりやすく、楽しめる子育て情報を企画する担当課が必要と考えます。子ども部4課のとりまとめは子育て支援課とお聞きしましたので、担当課に「子育て支援課」と記載して頂きたい。
加えて、82頁 No.68の外国籍の親子に対する子育てに必要な情報提供の担当課は「シティプロモーション課」と記載がありますが、子ども部の担当課との連携が必要であり、並列で子育て支援課と記載が必要と考えます。

⑦77頁 事業No.46、47、48 各手当の支給が「20未満」となっていますが、2022年4月1日からは18歳からが成人になります。様々な手当ての対象年齢も変わる可能性があるのではないのでしょうか。その場合は注釈が必要と考えます。

⑧無国籍の子どもの相談窓口や里親制度の推進についても記載して頂きたい。

特別な配慮を要する子どもへの支援の充実の項目で「児童発達支援センターの機能等の充実」がうたわれているが、機能充実が必要なのかは疑問を感じる。現在施設には相談待ちが多く、利用者数も増加しているが時代的にも、今後も増加傾向はやむを得ないと思う。したがって、いくら充実し続けても追いつかなくなってしまうのではないか。それであれば、その体制強化ではなく、民間施設や小児科などの医療機関に頼ったり、施設を民営化させるなど、公的機関で発達相談を一挙に担わないようにすべきではないか。発達相談を公的機関一つで一挙に担うのはそもそもキャパシティオーバーだと思う。いくら機能を強化しても足りなくなってしまう、いたちごっこになる。それに小児科に発達相談をすれば医療費がかかるのに、相談センターに相談すれば無料なのは、不公平を感じる。そもそも公的機関が発達相談を担うべきなのかも含めて再考すべきではないか。

「第2期八千代市子ども、子育て支援事業計画(素案)について」

すてっぷ21を利用していないという意見や、今後利用したいという意見が少ないと思いますが、今の立地や雰囲気では利用したくてもなかなか足が運ばないと思います。

乳児の時期は公園で遊ぶこともなかなか出来ないし、子どもと意志疎通を取ることも出来ないの
で、孤独状態です。

なので、室内のすてっぷ21はありがたいのですが、距離が遠い人は車で行かなければいけません。

車を確実に止められる数の駐車場でなければ行くことをためらいます。毎日バスを使う訳にもいきません。

とくに雨などの日は幼児も公園では遊べませんし、1日家にいる訳にもいきません。

みなさん気軽にすてっぷ21に行きたいと思っています。

そのためにも気軽に行ける場所に作らなくては意味がないと思います。

駐車場がたくさん有り、色々な施設が合わさっているところです。

すてっぷ21だけの施設ですと、飽きたらまた移動しなければなりません。子どもはチャイルドシートやベビーカーに乗るのをぐずりますので場所をなるべく移動したくありません。

私が思うに、フルルガーデンの空き店舗にすてっぷ21や児童館(八千代市には児童館がありません)を作ればたくさんの親子の居場所が出来ると思います。お腹が空けばフードコートを利用することも出来ますし、子供の買い物や夕飯の買い出しも出来るので親の都合も果たせます。

フルルガーデンでなくても、ふれあいプラザや八千代中央図書館などに併設していただければわざわざお弁当を持って出掛けなくても、着いてから買えるのでありがたいです。

子育て支援施設をもっと気軽に行ける施設にさせていただいて、みなさんが子育てしやすい環境になることを願っています。